校内研修

１　学校教育目標

地域で豊かに自分らしく生きる

２　研究主題（１年次）

児童生徒が「できる」を実感する授業づくり～「学びのプロセス」に着目して～

３　研究主題の設定について

(1)　前年度までの取組から

当校は平成２８年度から令和元年度の４年間、「分かって動ける授業づくり」に取り組んだ。その成果として、①（物的・人的）支援環境の設定、②活動参加の機会確保（量的→質的）が挙げられる。

令和２年度から昨年度までの３年間は、学習指導要領の改訂に伴い、３観点を意識した目標設定と評価に焦点を当て、「興味・関心をもって取り組む授業づくり」を目指した。その成果として、①実態把握表を活用した目標設定、②評価規準を明確にした学習評価が挙げられる。

(2)　児童生徒の実態から

当校の指導の重点は、「一人一人の『できる力』を見つけ、伸ばし、生活に生かす」である。これは、裏を返せば、児童生徒一人一人が自分のできることを見つけ、伸ばし、生活に生かすことに弱さが見られるからと言える。実際、学齢が上がるにつれて、新しいことにチャレンジしたり、継続して取り組んだりすることが難しくなっている。

また、保護者及び教職員対象に実施された令和４年度学校評価（後期）にもその傾向が伺える。具体的には、「学校は、実態に合わせ、学習したことが身に付くよう、支援・指導をしていますか」との設問に対して、肯定的評価の割合が保護者は９７％（前期 100%）、教職員は９１％（前期９８％）と若干ではあるが下がっている。教職員からは、「実態に合わせて支援しているが、身に付くまで至っていない」という声も挙がっている。

(3)　学習指導要領から

平成２９年に小・中学部の学習指導要領が改訂されて５年が経過している。県教委のアンケート結果によると、県内３５校ある特別支援学校において「学習指導要領の改訂に伴う教育活動の見直しや改善が進んでいる」と回答した学校は、２割程度にとどまっている。当校も取組が進んでいるとは言い難い。そのため、下図の学習指導要領等の６つの枠組みの見直しを踏まえ、教育課程や各種計画（年間指導計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画）、授業改善を着実に進めなければならない。

◆学習指導要領等の枠組みの見直し◆

①**「何ができるようになるか」**（育成を目指す資質・能力）
②**「何を学ぶか」**（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
③**「どのように学ぶか」**（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
④**「子供一人一人の発達をどのように支援するか」**（子供の発達を踏まえた指導）
⑤**「何が身に付いたか」**（学習評価の充実）
⑥**「実施するために何が必要か」**（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

引用：平成 30 年度全国特別支援学校知的障害教育校長会資料

(4)　本年度の研究主題について

前年度までの取組、児童生徒の実態、学習指導要領を受けて、本年度より新たな研究主題を設定した。本年度は、児童生徒の「学びのプロセス」に着目し、児童生徒が「できる」を実感する授業づくりを目指す。本年度は、１１月に当校で第３０回新潟県特別支援教育音楽授業研究会（以下：特支音研）が開催されるため、音楽科を授業づくりのモデルケースとしたい。

4　めざす児童生徒の姿

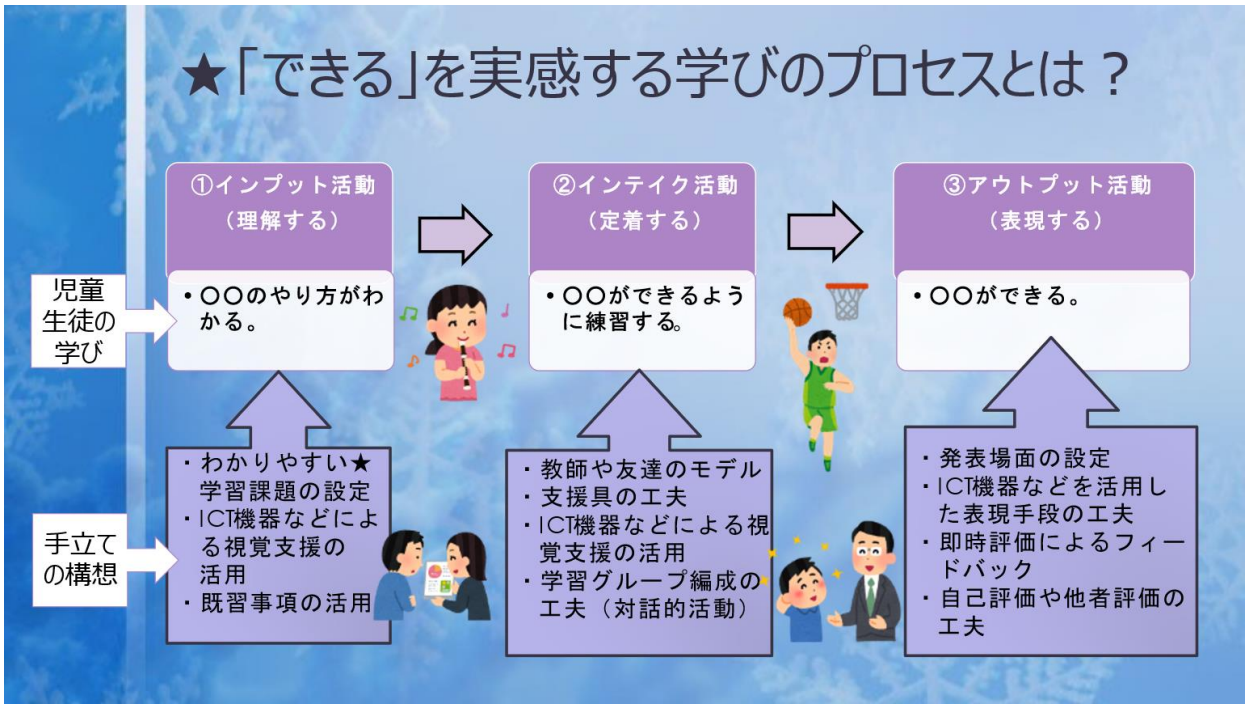
◎楽しみややりがいを見つけ、自分のできることを増やし、生活に生かそうとする姿

↓

○「わかった！」、「できた！」等と実感する。（知識・技能）
○「どうしたらできるかな」等と考え、工夫する。（思考・判断・表現）
○「楽しかった！」、「またやってみたい！」、「家や園でもやってみたい！」等と思う。
（主体的に学習に取り組む態度）

5　研究内容

めざす児童生徒の姿に迫るため、児童生徒の「学びのプロセス」を追求する。その際、下図のように「インプット活動（理解する）」→「インテイク活動（定着する）」→「アウトプット活動（表現する）」とステップを踏み、それぞれの活動において適切な手立てを検討する。



前年度の校内研修で公開された中学部音楽科の授業（単元名「イメージしながら演奏しよう～輝け！みんなの星空」）でも、「学びのプロセス」が以下のように取り入れられていた。

①インプット活動（星空の写真を見て演奏のイメージを膨らませる。）
②インテイク活動（星空の効果音グループを編成し、グループで演奏練習をする。）
③アウトプット活動（グループ毎に効果音の演奏を発表し、生徒が相互評価をする。）

普段の授業でも、授業者は意識して「学びのプロセス」を取り入れていく。

６　研究方法

⑴　児童生徒が分かりやすい「環境設定」

児童生徒の「学びのプロセス」を支える手立てとして、児童生徒にとって分かりやすい「環境設定」を整える。具体的には、TEACCH プログラムにおける「構造化」の視点を取り入れる。（例：「スケジュール」「物理的構造化」「ワークシステム」「ルーティーン」「視覚的構造化」）

⑵　児童生徒への効果的な「支援の仕方」

児童生徒の「学びのプロセス」を支える手立てとして、児童生徒への効果的な「支援の仕方」を意識する。具体的には、ABA（応用行動分析）の視点を取り入れる。（例：「分化強化」「先行子操作」「プロンプト」「消去」「弱化」）

⑶　児童生徒の「学びのプロセス」を意識した「活動構成」

授業担当者は、授業計画案を立てる際に、「学びのプロセス」を意識した「活動構成」を検討する。具体的には、その授業で児童生徒一人一人に「身に付けたいこと」を明確にし、それに対してアプローチする「活動構成」を試みる。

７　校内研修

⑴　全体研修（年間３回程度）

本年度は、当校で開催される特支音研において、小学部が授業公開を行う。当日は、指導者を招聘し、全教職員が公開授業を参観（視聴）し、授業協議会に参加する。

◆全体研修のテーマ◆

①第１回（５月１０日）：全体研修の概要説明
②第２回（６月または７月）：特支音研指導者による授業参観ならびに講話
③第３回（１１月２２日）：特支音研（当校にてリモート開催）

⑵　学部研修（毎月１回、年間１０回程度）

各学部の研究推進委員が中心となり、学校課題や各学部の児童生徒の実態に応じた研修テーマを設定し、研修を深める。

◆学部研修のテーマ（例）◆

◎特支音研に向けた計画・準備（※特支音研実行委員会と連携）
◎教育課程及び各種計画等の見直し（※教育課程検討委員会と連携有）
〇TEACCH プログラムにおける「構造化」について
〇ABA（応用行動分析）について
（※地域支援部と連携有）
〇ICT 機器の活用について（※情報部と連携）
〇児童生徒の気になる行動ケーススタディ（※生徒指導部と連携有）

⑶　各分掌主催の研修

上記の研修以外に、医療的ケア検討委員会や自立活動部、生徒指導部など各分掌主催の研修会が行われる予定である。

⑷　その他

全教職員は、全体研修や学部研修等で配付される指導案や研修資料等を各自でファイリングし、それをもって「研修のまとめ」とする。

８　研修の年間予定

学期	期　日	内　容	学部研修	その他校内研修等
１学期	４月		①４/２０	・医療的ケア研修会（４/６）
	５月１０日	**①全体研修** （本年度の校内研修の概要説明）	②５/１８	
	６～７月	**②全体研修** （特支音研指導者来校）	③６/２２ ④７/２０	
夏季休業	７～８月	・特支音研発表準備 小）指導案検討 中・高）実践発表検討 ・教職員向け図書の紹介		・公開講座（７/31） ・市人権同和教育研修会 （８/１）
２学期	９～11 月	・小学部研究授業（ビデオ撮影） **③特支音研（11/22）※リモート** ・小学部授業公開 ・授業協議会等	⑤９/２１ ⑥１０/１９ ⑦１１/１６	・スクールアカウンタビリティ（11/19）
	１２月	・令和６年度年間指導計画作成	⑧１２/２１	
３学期	１月	・「見附市の学校教育」原稿提出	⑨１/１８	
	２月		⑩２/２２	
	３月	・令和６年度年間指導計画完成		